

タンネウシ



11月号

タンネウシはアイヌ語で「長い・木の・群生しているところ」。博物館付近の地名です

竹富島、種取祭のDVDを上映します



玻座間民俗芸能保存会の亀井保信さんから、平成25年の種取祭(たなどうい)を記録したDVDを贈呈いただきました。この祭は種蒔きした作物が無事に育つことを祈るお祭りで、約600年の伝統をもち、国の重要無形文化財に指定されています。今年10月30日、31日2日間にわたり奉納芸能が行われました▶期間：11月1日(水)～30日(木)開館中は常時上映しています▶場所：交流記念館ホール▶映像鑑賞は無料です。

ロビー展 アンモナイト化石展



アンモナイトは約1億年前に北海道で生息していた大型の巻き貝です。

その殻の形と模様は美しく、人気のある化石です。門脇利彦さん(斜里町本町在住)が採集したアンモナイトを展示します。アンモナイトや化石を含むノジュール(化石を核とした団塊)なども展示しますので是非ご覧ください▶期間：11月5日(日)～12月10日(日)▶場所：交流記念館ホール▶ロビー展のみの観覧は無料です。

チャシコツ岬上遺跡で新発見

国指定の史跡指定をめざし、5年越しで発掘調査を行っている古代オホーツク人の集落跡の出土物から、フクロウの姿が彫刻された動物骨が見つかりました。アイヌの人々はシマフクロウを村の守り神として崇めていましたが、オホーツク人にとっても特別な存在だったのかもしれませんが、彼らの精神世界を少し垣間見ることができたような気がします。



黒いキツネでひと騒動

10月上旬、斜里の黒いキツネが一斉に報道されました。このキツネは村上学芸員が調査でしかけた自動撮影カメラに写ったものです。博物

館では2日間にわたり問合せの電話が鳴りっぱなしで仕事になりませんでした。

この度のキツネは普通のキツネです。キツネの毛色にはさまざまなバリエーションがあります。タンネウシ8月号でご紹介した斜里市街地の黒っぽい「十字狐」もその一つです。クンネチロンヌップ(黒狐)という言葉が、アイヌ語にあるように、道内のキツネにももともと黒毛の遺伝子があります。かつて毛皮需要から、高価な「銀狐」や「黒狐」が出やすい国外のキツネが「種狐」として導入され野生化したことも一因となっています。これら海外からのキツネによって、エキノコックス症の原因となる寄生虫は道内に入りこみました。

博物館のYouTubeチャンネルで見られます。

よろしくお祈りします



菅野智美です。見るもの触れるもの初めての体験や、色々なお客様に出会ったりと毎日が刺激的。笑顔で思いやりのある接客を心がけていきます。(編注：3児のママ。がんばれー)

休館日 各週の月曜日と、3日(祝・金)・23日(祝・木)です。3月までは祝日が休館。

編集後記 博物館には、香港のツアーが立ち寄ります。香港ノアールなど大の香港映画ファンとしては、生の広東語が聞けるのが嬉しい。しかし話せないのが悲しい。再見!(ひら)